

「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」の検討状況について

1 経 緯

H26	5月	博物館移転に向けた庁内検討に着手
H27	3月	千葉市史跡保存整備委員会を設置
H29	1月	「史跡加曽利貝塚保存活用計画」策定 (博物館を坂月川対岸へ移転する方針を公表)
H31	2月	「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン」策定 (小倉浄化センター跡地を中心に新たな博物館を整備する方針を公表)
R元	6月	令和元年度第1回千葉市史跡保存整備委員会開催 (「新ガイダンス施設基本計画」を3月までに策定することを説明)
	7月	令和元年度第1回千葉市立博物館協議会開催 (「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン」策定について報告) 「特別史跡加曽利貝塚新ガイダンス施設基本計画策定業務」委託業者の決定 (公募型プロポーザル方式：(株)丹青社)
	8月	令和元年度第1回千葉市史跡保存整備委員会加曽利貝塚調査研究部会開催 (博物館の中に史跡のガイダンス機能や縄文貝塚文化の調査研究機能を組み込んだ施設とする方針を提示) ※「新ガイダンス施設基本計画」から「新博物館基本計画」に名称変更
	11月	計画策定に向けたワークショップの開催 (新博物館で行う事業活動や展示体験に対する意見聴取)
	12月	令和元年度第3回千葉市史跡保存整備委員会開催 (「新博物館基本計画」の中間報告) 計画策定スケジュールの見直し (3月末までに素案を取りまとめ、庁内の調整や市史跡保存整備委員会の答申等を経て、令和2年秋までに策定・公表する)

2 計画の概要

加曽利貝塚の目指すべき姿を示した「史跡加曽利貝塚保存活用計画（平成29年1月策定）」、その目指すべき将来像を実現するための基本的な方針を定めた「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン（平成31年2月策定）」に基づき、そこで示された新博物館の整備のため、施設の基本方針並びに博物館機能及び管理運営計画などをまとめた「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画」を策定する。

(1) 史跡加曽利貝塚の目指すべき姿（保存活用計画より）

- ・ 縄文文化と貝塚の性格を究明し、調査研究の成果を世界に発信していく拠点
- ・ 研究成果に基づき、縄文時代の景観と人々の暮らしが体感できる史跡
- ・ 多くの人が集い、地域交流の中核を担う拠点
- ・ 人々の長い歴史を学び、自然と調和・共存する持続可能な未来を探る史跡

(2) 特別史跡加曽利貝塚の目指すべき将来像（グランドデザインより） ※下線：新博物館が担う機能

- ① 特別史跡としての役割 → 史跡の保存・活用・ガイダンス
 - ・我が国文化の象徴たる遺跡としての価値を守り育て、新たな価値を生み出す史跡
 - ・研究成果に基づき、縄文時代の景観と人々の暮らしが体感できる史跡
 - ・貝塚の調査研究、整備方法を後世に伝えていく史跡
 - ・人々の長い歴史を学び、自然と調和・共存する持続可能な未来を探る史跡
- ② 緑地、公園としての役割 → 史跡と周辺の自然環境の保全・育成・活用
 - ・史跡と一体となった縄文時代の景観を演出する場所
 - ・自然環境の保全と育成を通して自然に親しみ、くつろぎの空間を演出する場所
 - ・学習や遊びなど多様な活動を行う場所
- ③ 博物館としての役割
 - ・幅広い調査研究を推進し、縄文文化と貝塚の性格を究明していく拠点
 - ・縄文文化と貝塚に関する資料を収集保存し、後世へ守り伝えていく拠点
 - ・調査研究の成果を積極的に公開活用し、世界に発信していく拠点
 - ・学校教育や生涯学習など多様な学習を支援し、加曽利貝塚に携わる人材を育てていく拠点

【基本計画の構成(案)】

第I章 基本方針	第IV章 展示・体験計画
第II章 事業活動計画	第V章 管理運営計画
第III章 施設計画	第VI章 整備スケジュール

3 計画のポイント

第I章 基本方針

加曽利貝塚と現博物館の現状と課題を整理し、新博物館に求められる役割を検討した上で、新博物館の基本方針と利用者層を次のとおり定める。

【新博物館の基本方針】

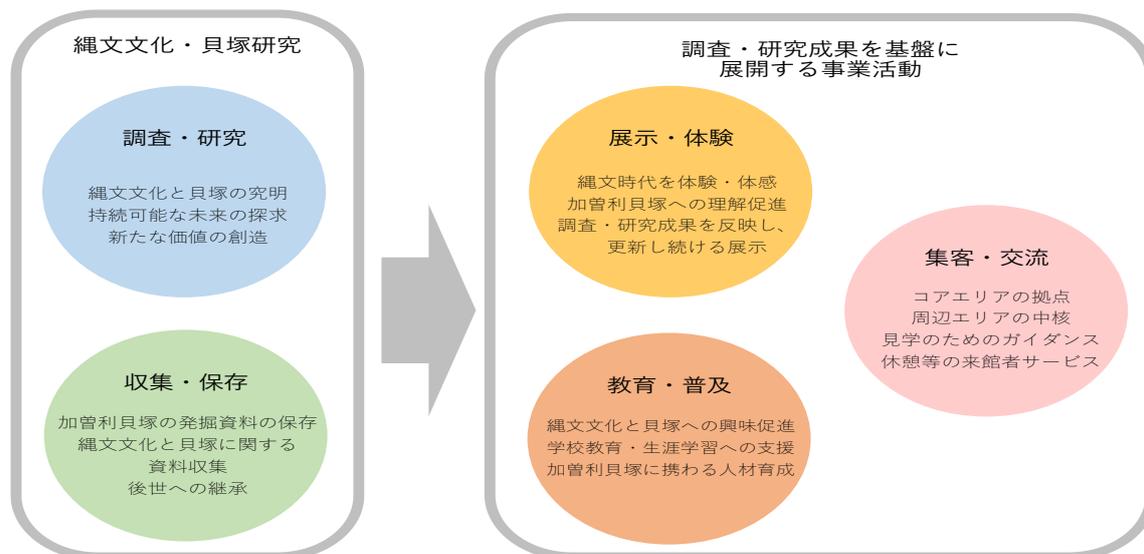
- ① 縄文文化や貝塚研究の中核施設としての活動
- ② 自然と調和・共存する持続可能な未来の実現を目指す博物館活動
- ③ みんなでつくる博物館の実現
- ④ 加曽利貝塚への様々な興味・関心・幅広いニーズへの対応
- ⑤ 体験の重視

【新博物館の利用者層】

利用者像	想定されるセグメント	求められる要素
市民	・子育てファミリー	家族で楽しめる遊び場
	・小中学生	遊び場・居場所、学習の場
	・高校生・大学生	居場所、活動・学習・研究の場
	・社会人	非日常的な学習・体験の場
	・シニア世代	学習の場、活躍の場、生きがい創出
研究者	・幅広い分野の研究者 ・大学生・留学生	発掘調査や共同研究への参画 自らの学習・研究のための利用
学校団体	・幼稚園	遊びながら史跡に親しむ
	・小学校、中学校、高等学校	地域の文化財を活用した学習の場、修学旅行
観光客	・国内観光客	首都圏において、自然の中で縄文時代を体感できる学習観光施設として利用
	・海外観光客	

第Ⅱ章 事業活動計画

新博物館の基本方針を実現するため、次の事業活動を展開する。



各事業活動は、次の基本方針・テーマに沿って、コアエリア（新博物館及び特別史跡加曽利貝塚、縄文の森特別緑地保全地区：約 32.6 ヘクタール）全体をフィールドとした活動を展開する。

【事業活動の基本方針】

- ① 活発な調査・研究を行います。
- ② 調査・研究のプロセスや最新の成果を素早く発信します。
- ③ 縄文時代の暮らしをまるごと体験する機会を提供します。
- ④ 自ら学び、考える仕掛けを重視し、生きる力を育みます。
- ⑤ 人々が気軽に何度も集い、交流が生まれる空間を提供します。

【事業活動のテーマ】

これらの基本方針の共通理念を表す言葉を「LIVING JOMON」とする。

この言葉には、訪れた人が縄文文化研究の最前線にふれ、縄文時代を丸ごと体験することで、「縄文時代に来た！」と、その魅力や価値を生き生きと感じられる事業を展開するという意味を込めている。

【事業活動の展開】

- ① 調査・研究 加曽利貝塚の計画的な調査研究を推進するとともに、縄文文化や貝塚に関する中核拠点として、貝塚や縄文時代の史跡を有する自治体、研究機関や博物館などと連携し、縄文文化や貝塚の究明に向けた調査・研究、情報の収集を行う。
- ② 収集・保存 加曽利貝塚の発掘調査で出土した資料、縄文文化と貝塚に関わる調査・研究や展示・体験に必要な資料を収集し、埋蔵文化財調査センターなどとの分担により適切に保存する。
- ③ 展示・体験 様々な興味・関心を持つ人々に対して、遊びや気軽な体験から本格的な学習や研究・体験まで、幅広いアプローチによる展示や体験を展開する。その内容は、調査・研究成果を反映し学術的な裏付けに基づき、常に更新し続けることを目指す。
- ④ 教育・普及 来館者の多様な興味に対応できる教材やプログラムを、最新の研究成果を活かして開発する。また、学校教育や生涯学習の支援を積極的に推進し、地域の歴史や伝統文化に対する誇りや愛着を育む。
- ⑤ 集客・交流 加曽利貝塚に関する基礎的な情報に加え、コアエリア全体の利用案内や体験プログラムなどの情報を提供するとともに、コアエリア全体の見学や体験をサポートする休憩や飲食などの利用者サービスの充実を図る。

第三章 施設計画

施設整備の基本的な考え方を次のとおり整理し、施設計画検討に係る条件設定、候補地の条件整理、諸室の構成・規模などを定める。

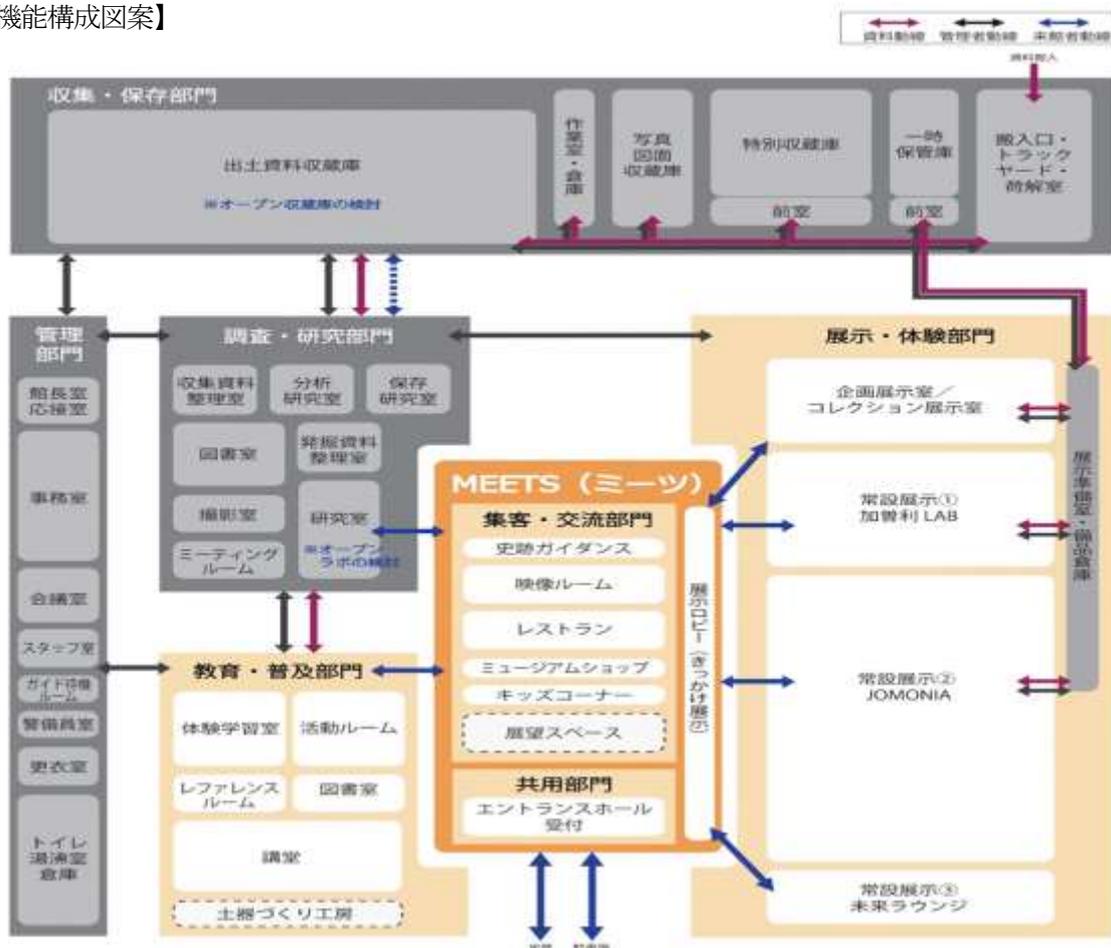
- ① 特別史跡加曾利貝塚との連続性の確保
史跡や周囲の自然環境との調和、史跡を望む展望設備の整備 等
- ② 博物館としての機能拡充
国宝・重要文化財の公開承認施設の基準適合、文化財 IPM（総合的病害虫管理）の導入、調査・研究機能の拡充、調査・研究作業の公開 等
- ③ 出会いや交流の場としての機能拡充
出会いや交流の場の中核となる「ミーツ（MEETS）」の整備 等
- ④ 集客施設としての機能拡充
気軽に利用できる空間づくり（無料スペース、キッズスペース等）、ユニバーサルデザイン 等

【諸室の構成・規模】

事業活動計画や管理運営計画の検討結果を踏まえ、規模を決定する。

収集・保存	収蔵庫・一時保管庫・倉庫・荷解室 等
調査・研究	研究室・資料整理室・図書室・撮影室 等
展示・体験	展示ロビー・常設展示室・企画展示室・準備室 等
教育・普及	体験学習室・講堂・活動ルーム・レファレンスルーム ・図書室・土器づくり工房 等
集客・交流	史跡ガイダンス・映像ルーム・キッズルーム ・展望スペース・レストラン・ミュージアムショップ 等
管理	館長室・応接室・会議室・スタッフ室・ガイド待機室 ・警備員室 等
共用	エントランスホール・受付・廊下・階段・エレベーター ・倉庫・機械室 等

【機能構成図案】



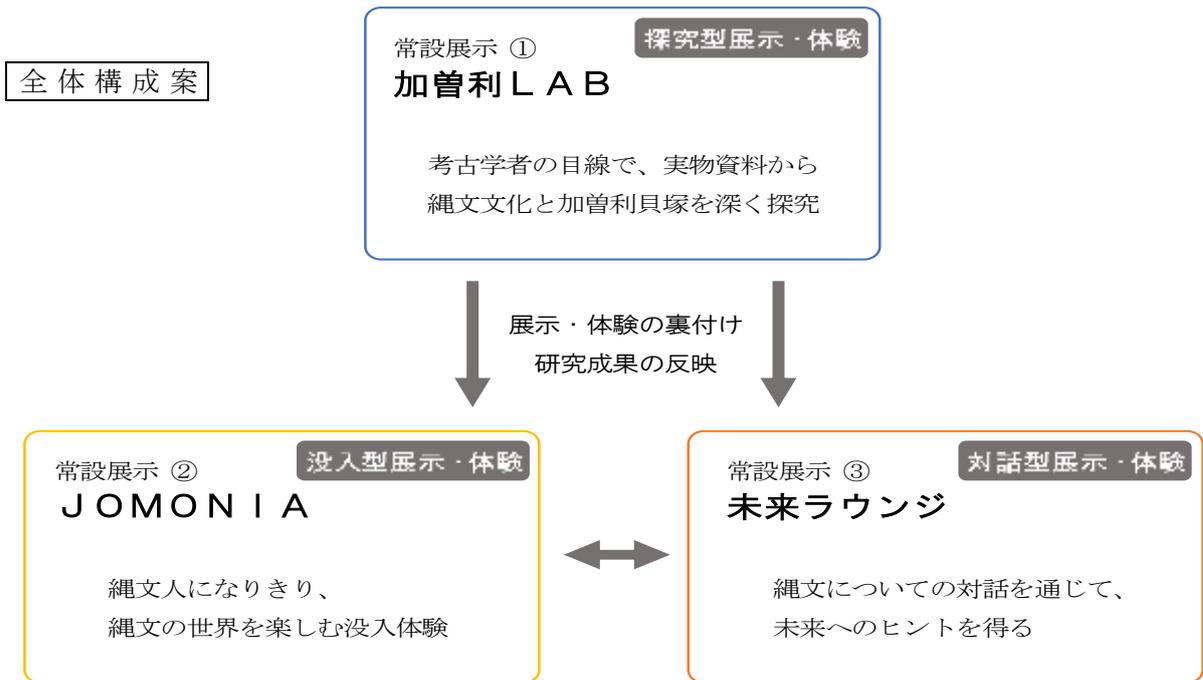
第IV章 展示・体験計画

新博物館の基本方針を実現するため、展示・体験は、調査・研究成果を反映し、主体的な体験を重視し、さらには多様な興味・関心や幅広い客層への対応したものとする。

これらの展開方針を踏まえ、展示・体験のテーマを次のとおり定める。

【常設展示】

展示の中核となる探求型展示「加曽利LAB」、最新の研究成果や探求型展示での検証などを反映させた没入型展示「JOMONIA」、対話型展示「未来ラウンジ」の3つの展示エリアで構成し、来館者が興味や関心に応じて、自由に見学ができるようにする。



① 探求型展示「加曽利LAB」

- ・展示室 縄文文化と貝塚の魅力や価値を分かりやすく紹介する展示構成
調査・研究の進展に合わせて随時更新ができるフレキシブルな構成
貴重な出土資料の保存環境に配慮した展示環境
- ・アクティブラボ 来館者が調査・研究の一端を体感できる体験の提供
- ・オープンラボ 学芸職員などの作業エリアを公開し、調査・研究のライブ感を伝える



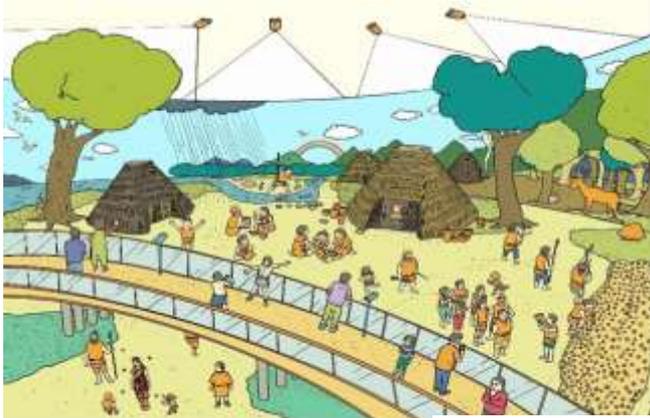
アクティブラボ



オープンラボ

② 没入型展示「JOMONIA」

- ・縄文時代の加曽利のムラとフィールドを再現した空間で、縄文人になりきって縄文の暮らしや文化を体験する展示を展開する。
- ・時間や季節の移り変わり、気象の変化などの演出により縄文の世界への没入感を演出し、遺跡だけでは味わえない体験を提供する。
- ・再現空間内の住居や道具は、素材などをできるだけ忠実に再現し、体験やキャストによる実演に活用する。
- ・デジタル技術の導入による没入できる空間演出と、来館者が自ら手や体を動かすアナログの体験をバランス良く盛り込む。



空間イメージ

JOMONIAと屋外・史跡内のそれぞれの特徴を活かし、体験のすみわけと連携を行い、相乗効果が得られる効果的な体験を実現する。



縄文の星空の演出



作戦を立てて狩りを行う



みんなで作る丸木舟

③ 対話型展示「縄文ラウンジ」

- ・5,000年タイムトラベル 縄文時代から現代までの加曽利貝塚の歴史を映像でたどる
- ・縄文トークテーブル ワークショップや創作活動、活動の成果発表
- ・私たちの貝塚 未来に残したい大切なものやメッセージを展示、蓄積



対話型展示「未来ラウンジ」の空間イメージ



映像「5,000年タイムトラベル」のイメージ

【企画展示】

- ・縄文時代に関する企画展や特別展の開催
- ・加曾利貝塚の発掘調査の成果の公表
- ・縄文貝塚文化研究の成果の公表
- ・積極的な巡回展の誘致

【コレクション展示】

- ・これまで収集してきた寄贈・寄託資料を中心とした館のコレクション資料の展示
- ・新たな資料の収集による更新性の確保

【導入展示】

- ・館内の共用エリア「ミーツ（MEETS）」をはじめとする館内各所で、常設展示や企画展示などへの興味を喚起するきっかけとなる展示を展開
例) 発掘や研究の最新情報の紹介、展示の楽しみ方のヒント、来館者への問いかけ

第V章 管理運営計画

管理運営に係る基本的な考え方を次のとおり策定し、それに基づく管理運営方式、組織体制、市民協働の考え方、開館形態等の諸条件や今後の検討課題などを整理する。

【基本的な考え方】

- ① 調査・研究体制の強化
 - ・縄文文化と貝塚に関わる研究の拠点施設としてふさわしい調査・研究体制の実現
 - ・調査研究機関や外部研究者との連携の推進
- ② 「みんなでつくる博物館」を体現する運営体制の構築
 - ・計画段階から様々な主体に関わる運営の仕組みづくり
 - ・既存の博物館支援活動（ボランティア、友の会等）の活性化と新たな市民参画の促進
- ③ 活発な博物館を持続的に展開するための工夫
 - ・効率的な運営の仕組みの構築
 - ・事業活動や管理運営に対する評価・改善システムのあり方の検討
 - ・外部資金の確保に向けた取組みの積極的な展開
- ④ 市民や利用者の満足度を高める運営の実現
 - ・多様な利用者や利用形態に対応したきめ細やかなサービスの提供
 - ・市民や利用者の立場に立った開館時間や利用料金の検討

【管理運営方式】

- ① 貴重な資産の保存・継承、活用に向けた持続性や専門性の確保
 - ・特別史跡や貴重な自然環境の保全・継承と活用に必要な組織体制の整備
 - ・専門職員が責任感や高い意識を持って安定的・持続的に活動できる環境づくり
- ② 公益的視点に立った連携体制の確保
 - ・地域振興の牽引役として、様々な施設・組織とのネットワーク構築
- ③ 市の施策との連動、効率性の確保
 - ・市の文化振興施策や地域振興施策を反映した運営
 - ・高い水準での博物館活動を進めつつ、効率化を図ることができる運営

【組織体制】

博物館の中に、史跡・公園の管理とガイダンスに関する機能、縄文貝塚文化の調査研究機能を組み込んだ組織体制とする。

第Ⅵ章 整備スケジュール

令和7年度を目途に、建築及び展示に係る整備スケジュールを整理する。

- R 3 建築基本設計、展示基本設計
- R 4 建築実施設計、展示実施設計
- R 5～ 建築工事、展示製作・工事
- R 7 開館（予定）

4 今後の計画策定スケジュール

- R 2 3月 基本計画（素案）取りまとめ
- 4月～ 庁内調整、ワークショップでの意見聴取
- 夏頃 千葉県史跡保存整備委員会 答申
政策会議、教育委員会会議
- 秋頃 基本計画策定・公表